



日本文化型看護学の創出・国際発信拠点

実践知に基づく看護学の確立と展開



「日本文化型看護学の創出を目指して」

拠点リーダー 千葉大学看護学部訪問看護学教授 石垣和子

私どもの21世紀COEプログラムは、日本文化型の看護学を創出するという目的に向かって研究を進めてまいりましたが、ここまでの活動を通して本目的が多く注目を浴びるものであることを痛感しております。また本拠点は、千葉大学全学の応援を受け、拠点推進担当者に医学研究院、社会文化科学研究科のメンバーが参加した、学際的な分析を行うことを目指しております。今までの看護学とはひと味違う、より多方面からの人間理解や文化理解を取り入れた看護学、より明確な根拠に基づき、看護実践者が自信を持って臨むことのできる看護実践を引き出すような看護学を示したいと考えるものであります。またこの過程で、本拠点の目指す看護学をさらに継続して推進していただけるような大学院生、若手研究者を育成し、将来に向かって輩出する計画であります。

これまで平成15、16年度の2年間の基礎的研究を終え、平成17年度はステップ・ジャンプへのつなぎの年と捉えられます。COEフェローの拡充とサブプロジェクト間の有機的連携を推進すると同時に、ホームページやニュースレターを通じた情報発信を行っております。また、8月には学部間提携を結んでいるアラバマ大学より3人の先生方

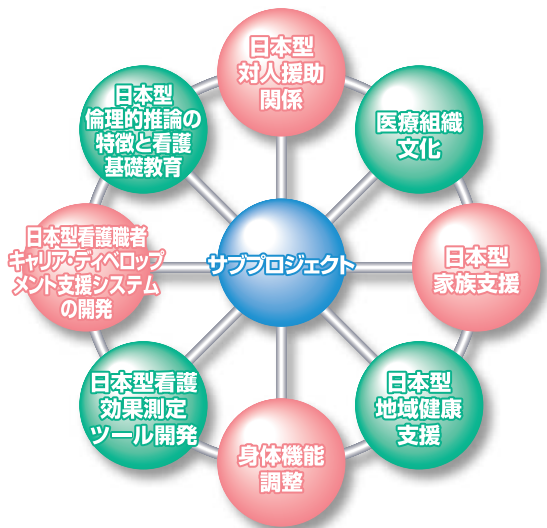
をお招きし、大々的なワークショップを行い、異文化間の看護学の多様性と科学としての共通性について、活発な意見交換を行いました。さらに、哲学や文化人類学といった他分野の先生をお招きして公開講座を開くなど、日本文化型看護学の創出を目指し、多様な活動を行っております。

平成17年度は当拠点の中間評価が行なわれた年でもありました。研究組織の中では、ちょうどそれぞれの研究の共有が必要な時期にもさしかかり、本プロジェクトを構成する多くのメンバーが意見交換を盛んに行ったことにより、有機的連携が生まれたと共に、プロジェクトがひとつの目標に向かうための大きなきっかけを作ることができました。また、中間評価をいただいた先生方からの研究推進に向けた意見を合わせて、私どもは新たな気持ちで平成18年度、19年度の研究に向けた準備をいたしました。看護学研究科に属するほとんどの教員・学生のみならず、大勢の学外の研究協力者も参加するという大きなテーマでの、5年間という期間で行うこの研究の難しさや楽しさを様々な感じさせられております。今後、ステップ・ジャンプできることを目指して頑張りたいと思っております。

サブプロジェクトについて

本プログラムは最終目標である「実践知に基づく看護学の構築と展開」を効果的に達成するため、以下の7つのサブプロジェクトを設けて研究を進めています。

- 日本型対人援助関係
- 医療組織文化
- 日本型家族支援
- 日本型地域健康支援
- 身体機能調整
- 日本型看護効果測定ツール開発
- 日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの開発
- 日本型倫理的推論の特徴と看護基礎教育



それぞれのサブプロジェクトはお互いに独立しつつも有機的な提携を保って活動しており、それらの成果は全体研究報告会などを通してフェローのみならず、看護学研究科に属する教員・学生などにも共有されています。

サブプロジェクトの活動紹介

各サブプロジェクトはさらに、各々研究班に分かれて研究を行い、それらを持ち寄って知識の共有化を図った上で、サブプロジェクトを進行させています。そこで本号以下、順次各サブプロジェクトの研究状況の紹介を行っていく予定です。今回は「日本型地域看護支援」について、紹介します。

◆サブプロジェクト「日本型地域健康支援」

ここでは、地域特性を反映した看護実践知の創出（育児支援、生活習慣病予防、介護予防）、行政保健師の施策化能力、日本の在宅療養者への看護実践知の創出を目標とし、医療機関外の地域社会における看護活動の日本的特徴を探索している。例えば在宅看護班は、在宅療養者への個別の看護に焦点をあてて研究を行っている。今年度は、外来通院患者や訪問看護利用者への看護の特徴をまとめるために、本学部にこれまで提出された関連する修士・博士論文をレビューした。レビュー結果はアラバマ大学看護学部の先生方と共有し、フィードバックを得て最終的にまとめた。患者が表出しない、または表出できない苦悩や意思・希望を掘り起こし、意識化・共有化することから看護が始まっており、日本の特徴と考えられた。特に訪問看護では、患者の家族に対しても同様の意思表示の働きかけを濃厚に行って、患者・家族間の対話を促進していた。この知見をもとに、海外の看護との比較研究を計画している。



アラバマ大学教授らとのディスカッションの様子

COE主催のイベント

【公開セミナー】

「臨床倫理と看護ケア」

◆講師：清水 哲郎

(東北大学大学院文学研究科教授)

◆日時：2005年11月22日(火)

臨床倫理について積極的に発言を重ねられている東北大学の清水哲郎先生をお招きして、生命倫理とは違う臨床倫理とは何か、臨床倫理における看護師の役割の重要性、臨床現場における倫理的問題を検討するための「臨床倫理検討シート」について、お話いただきました。



講演の様子(清水先生)

【特別講演】

「病気だけど病気じゃない」

◆講師：浮ヶ谷 幸代

(千葉大学・立教大学非常勤講師)

◆日時：2005年12月16日(金)

本講演では、糖尿病患者が、「病気である」という位置づけと当事者の日常生活における「病気ではない」感覚の両方を生きている様子を、糖尿病患者への聞き取り調査と患者会への参与観察をもとにお話いただきました。〈文化〉の捉え方、そして医療制度、糖尿病患者を取り巻く人間関係、糖尿病患者の日常的な実践、患者会といった多角的な面からの分析について理解が深まったのではないのでしょうか。参加者ともメタ分析を含め活発な議論が交わされました。先生のご著書『病気だけど病気では

ない』(誠信書房)には、「セットとしてのセルフ」など、糖尿病研究者のみならず、看護学、人文社会科学研究者にとっても大変示唆的な概念が盛り込まれています。



講演の様子(浮ヶ谷先生)

【特別講演】

「日本の看護師の中の看護倫理」

◆講師：和泉 成子

(福岡県立大学看護学部基礎看護学助教授)

◆日時：2006年1月18日(水)

看護倫理について研究を重ねられている和泉先生から、日本・米国でのホスピス体験を基に、看護倫理とは何か、また高度化、複雑化した治療の場において看護師が重要と考える倫理的関心について、日本のターミナルケアにおける看護実践の中から明らかになった点を中心にお話いただきました。



ディスカッションの様子(和泉先生)

また翌日1月19日には、大学院生、およびCOEフェローと共に、看護師の倫理研究について、ケアリング、フェミニズム、国際比較の観点からより発展したディスカッションが行われました。

COEフェローの活躍

＜研究論文＞

- ・吉永亜子, 吉本照子: 睡眠を促す援助としての足浴についての文献検討, 日本看護技術学会誌, 4(2), 4-13, 2005
- ・井出成美, 石川麻衣, 宮崎美砂子: 住民の援助ニーズに応じた地域ケアシステム構築における行政保健師の看護実践知の創出—研究結果のメタ統合, 千葉看護学会誌, 11(2), 8-15, 2005
- ・三浦弘恵, 舟島なをみ: 日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの検証, 看護教育, 47(2), 178-183, 2006

＜学会発表＞

- ◆第36回 日本看護学会(看護管理)(奈良), 11月4-5日
 - ・三浦弘恵, 舟島なをみ: 院内教育における評価の現状と課題—プログラムの充実を目指して—
- ◆第25回 日本看護科学学会学術集会(青森), 11月18-19日
 - ・三浦弘恵, 舟島なをみ: 異なる2病院に就業する看護師の教育・学習ニーズの比較—院内教育プログラム立案に向けたアセスメントツールの有用性—
- ◆9th Nursing Research Conference(Madrid, Spain), November 23-26, 2005
 - ・Dong Chen, Emi Mori, Yoshimi Mochizuki, Mika Ando, Eiko Kashiwabara, Kuniko Ishii, Eliko Otsuki: Development of Nursing Intervention Program to Reduce Stress of the women undergoing infertility treatment
- ◆19th Annual Pacific Nursing Research Conference (Hawaii, U.S.A), February 24-25, 2006,
 - ・Hiroe Miura, Naomi Funashima: The Development of a Learning Needs Assessment Tool for Nursing Faculty: Promote Evidenced-Based Faculty Development in Japan,

第3回COE国際シンポジウムの案内



- ◆日時: 2006年2月20日(月) 9:00~17:45
- ◆場所: 千葉大学 けやき会館
〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町1-33
JR総武線「西千葉駅」徒歩5分
京成電鉄千葉線「みどり台駅」徒歩5分
- ◆テーマ: 日本文化型看護学～知の創出と検証～
- ◆プログラム
 - ・基調講演「社会システム、体験の蓄積と日本文化型看護学」
石垣和子(千葉大学看護学部長・拠点リーダー)
 - ・招聘講演「米国における低賃金労働者問題: 健康格差への看護学の挑戦」
Carolyn Sampsel(ミシガン大学)
 - ・テーマセッション1
「親と子の関係形成への支援—日本文化型看護学の創出と検証に向けて—」
 - ・テーマセッション2
「日本文化型看護学の創出と検証に向けた学術的検討」
 - ・ポスターセッション
- ◆18:00~懇親会(千葉大学けやき会館内)

連 絡 先

千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部 COE 研究室
Tel: 222-7171 (5859) Fax: 043-223-7330
URL: <http://www.n.chiba-u.ac.jp/21coeplogram/21COEPlogram>